



令和 5 年（2023 年）12 月 7 日

特別陳列「3 世紀の靱（ゆき） 稲部遺跡出土の矢入れ具」 について

彦根市稲部遺跡で出土した古墳時代初頭（紀元 3 世紀中頃・約 1,800 年前）の「靱（ゆき）」と呼ばれる矢入れ具が、滋賀県立安土城考古博物館（近江八幡市下豊浦 6678）において展示公開中です。

稲部遺跡で出土した靱は、2 本の横帯部分などが残った状態で、集落遺跡の導水施設とみられる溝で長大な板などと出土しており、国内最古級の資料となります。この靱は、古墳時代前期の古墳に副葬された例より古く、靱の製作と使用が始まった様子、古墳時代初頭の社会、紡織技術を知るうえで重要な資料です。

- 1 会 期 令和 5 年 11 月 22 日（水）～令和 6 年 1 月 14 日（日）
※年末年始 12 月 28 日（木）～1 月 4 日（木）は休館
- 2 会 場 滋賀県立安土城考古博物館 望楼下
- 3 開館時間 9 時～17 時（入館は 16 時 30 分まで）
- 4 休館日 月曜日 ※月曜日が祝日の場合は、翌日休館
- 5 入館料 大人 500 円（400 円）、高校生及び大学生 320 円（260 円）
※（ ）は 20 人以上の団体料金です。信長の館との共通券 大人 900 円、高校生及び大学生 510 円
- 6 展示資料 靱 1 件（稲部遺跡出土・彦根市所蔵）
- 7 関連行事 ≪特別陳列関連講座≫「3 世紀の靱 彦根市稲部遺跡出土の矢入れ具」
講師：戸塚 洋輔（彦根市観光文化戦略部文化財課）
日時：令和 5 年 12 月 9 日（土）13 時 30 分～15 時
会場：滋賀県立安土城考古博物館セミナールーム
参加費：300 円（資料代）
定員：100 名
※申込：往復はがきによる事前申込制。定員に達し次第、受付終了。講座のお問い合わせは滋賀県立安土城考古博物館（TEL0748-46-2424）まで。

お問い合わせ先

観光文化戦略部文化財課

文化財係 担当：戸塚・林

電話：0749-26-5833

FAX：0749-26-5899

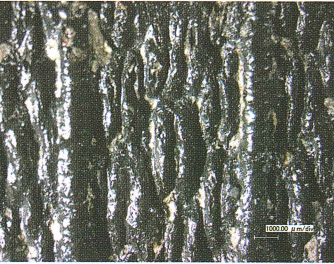
E-mail：bunkazai@mx.hikone.ed.jp

■整理作業

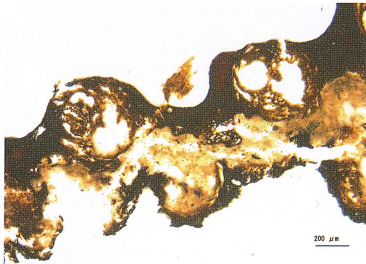


現場から取り上げた漆塗繊維製品はとても脆いので、壊れないように、面相筆で注意深く土を取り除いていきます。現場ではよく見えていなかった漆の光沢、織物の組織と綾杉文様が見えてきます。

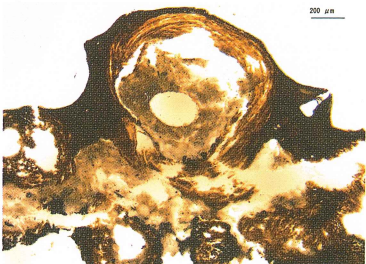
■顕微鏡による観察



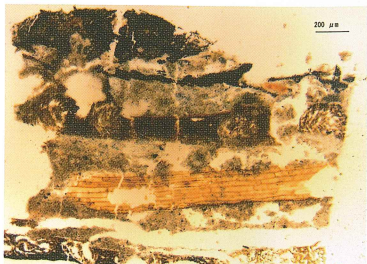
2号横带上層外面の突帯部
※バーの長さは1000μm (1mm)



2号横带上層突帯部の横断面
※バーの長さは200μm (0.2mm)



2号横带上層突帯部の横断面



2号横带上層突帯部の縦断面
撮影 公益財団法人元興寺文化財研究所

生物顕微鏡と金属顕微鏡による観察では、漆塗繊維製品の構造と材料を知ることができました。経糸は絹を撚って約500～600μmの太さにしたものを経糸として使っています。織物の上の経糸に平行する突帯部は、横断面の観察から直径220～300μm中空の芯の周りに漆塗繊維製品の経糸と同じ絹糸を巻きつけた構造であることが推定できます。なお、芯の周りに巻き付けられた絹糸は、直径約200μmの糸を使っています。縦断面の観察によると、芯となっているのは植物の茎の可能性が高いと推測されます。一方、緯糸の横断面の観察では、緯糸は植物性の繊維である可能性が高いことが推測されました。さらに、突帯部の繊維の上に50～300μmの黒色物質を混ぜた漆が一層塗られ、突帯部以外の部分でも複数の漆の層が観察されています。

■鞆の構造と使用方法

漆塗繊維製品が鞆の横帯と考えられる根拠の一つが、紐通しの存在です。古墳時代前期の古墳に副葬された鞆とよく似た形であり、背中に背負うための紐を通した部分と考えられます。鞆の多くは背中に背負って使われていたようです。

矢筒部の素材は革や繊維であったと推測され、横帯と矢筒部の接合方法や古墳に副葬された鞆との比較検討が今後の課題です。古墳時代前期の福井県鼓山古墳に副葬された1号・2号鞆などは、横帯と矢筒部に稲部遺跡で出土した鞆と同様な綾杉文様の織目と突帯を持つことから、デザインに共通点が認められます。

■おわりに

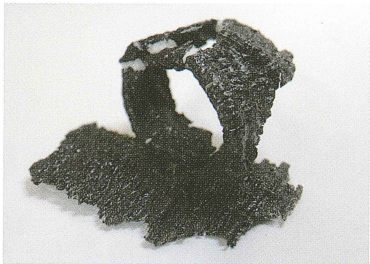
稲部遺跡で出土した鞆の横帯と考えられる帯状漆塗繊維製品は、漆を塗布されていたことと、湿潤な土中に保持されたことで、奇跡的に形状が維持されていました。織物の構造や材料、織物の裏面を詳細に観察できる極めて貴重な例です。古墳に副葬された他の鞆を理解するための重要な情報を教えてくれるとともに、日本列島における鞆の出現について、材質、組織、織成技術、加工方法、構造から考えるための大きな手がかりが得られたといえるでしょう。

3世紀の拠点集落と考えられる稲部遺跡において、鞆が出土した意味や背景について今後も検討を進めていきます。

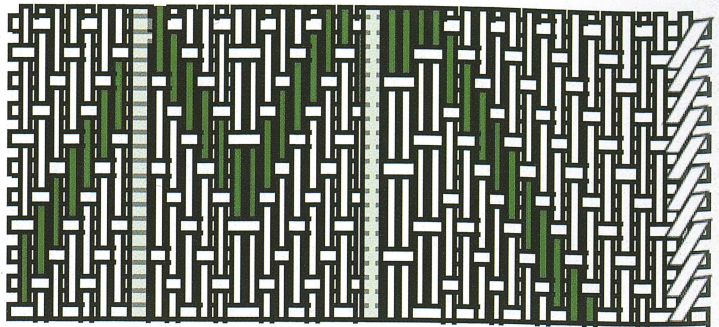
漆塗繊維製品の調査では関係者・関係機関の方々にご指導・ご協力いただきました。

鞆の復元模式図▶

福井県鼓山古墳1号鞆 高さ約69.0cm



▲2号横帯下層外面の紐通し



1号横带上層外面の組織模式図

作成 公益財団法人元興寺文化財研究所

※模式図の色は糸の色を示すものではありません。

織物の組織は主に綾織と呼ばれる織り方で、経糸の動きは緯糸2越1沈となります。右上がり斜文と右下がり斜文を組み合わせる綾杉文様を織り出しています。さらに、中心に植物の茎を芯とし、それに絹糸を巻き付け、漆を塗った2条の突帯が縫い付けられています。

3世紀の鞆

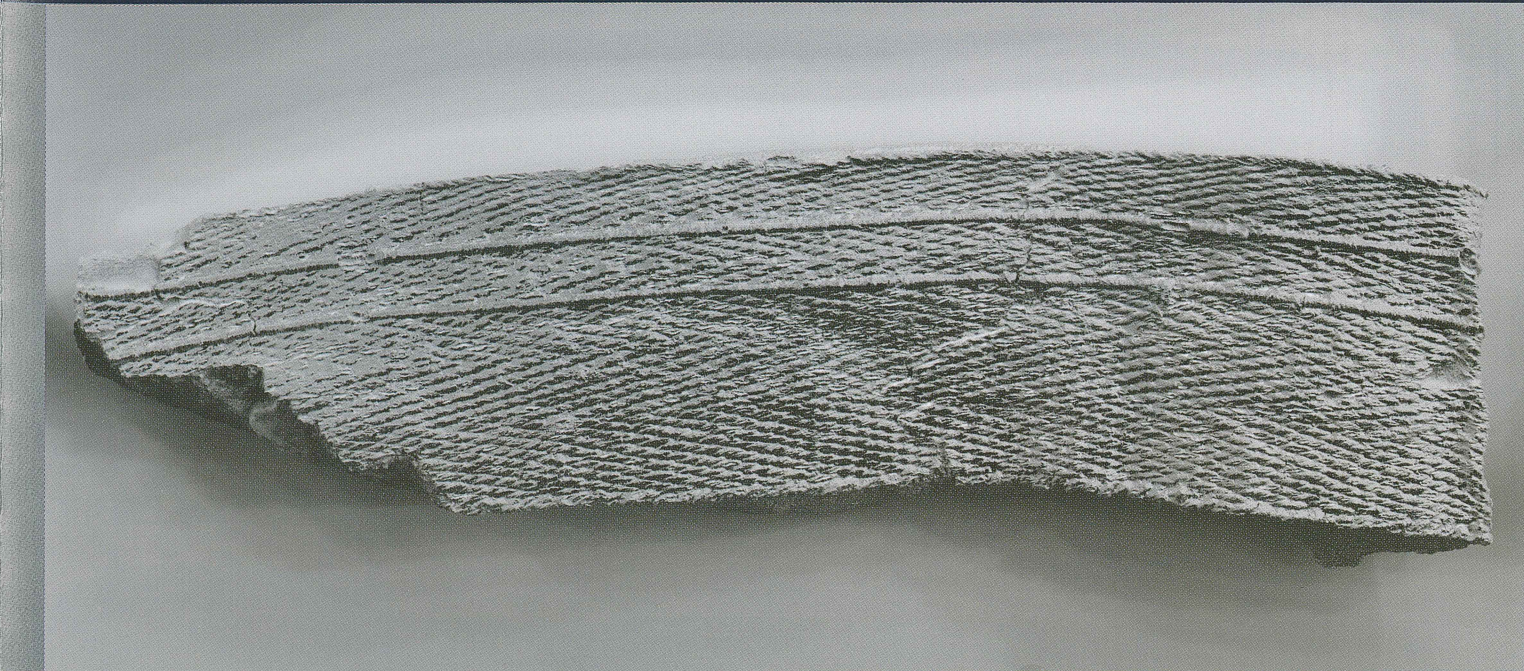
稲部遺跡出土の矢入れ具

Yuki, a quiver in the third century, early kofun period excavated from Inabe Site, Hikone City

はじめに

滋賀県彦根市稲部遺跡で出土した古墳時代初頭(3世紀中頃)の帯状の漆塗繊維製品は、絹糸と植物繊維による綾織物で、黒漆が塗られています。その特徴から、この時代では希少な鞆と呼ばれる武具である可能性の高いことがわかりました。織組織と形態から復原検討を行うと、箱状の矢筒部に巻かれた横帯の部分であると推定されます。

基礎的な記録として、実測図を作成し、写真を撮影しますが、あわせてRTI画像(Reflectance Transformation Imaging)を作成しました。RTI画像では、漆塗繊維製品に任意方向の光線を照射することで、陰影をシミュレーションし、繊維の撚りや織目、微細な形状をわかりやすく観察・記録することができます。



1号横带上層外面(上)と下層内面(下) 実寸大

0 1:1 5cm

RTI画像提供 大手前大学史学研究所

3世紀の鞆

稲部遺跡出土の矢入れ具

2023年(令和5年)3月発行

編集・発行 彦根市文化財課

〒522-8501 滋賀県彦根市元町4番2号

Tel: 0749-26-5833

Fax: 0749-26-5899

E-mail: bunkazai@mx.hikone.ed.jp



小口



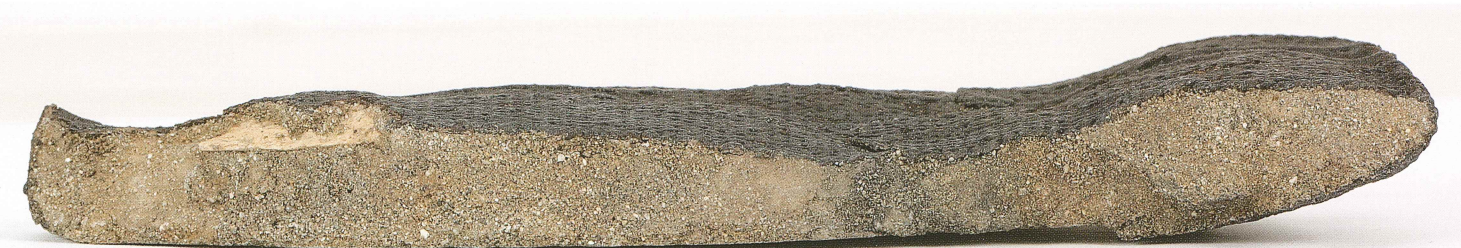
1号横帯下層外面

縦 19.5 cm、横 4.85 cm (取り上げ時)

縦 18.7 cm、横 4.5 cm (取り上げ後)



1号横帯上層外面



側面

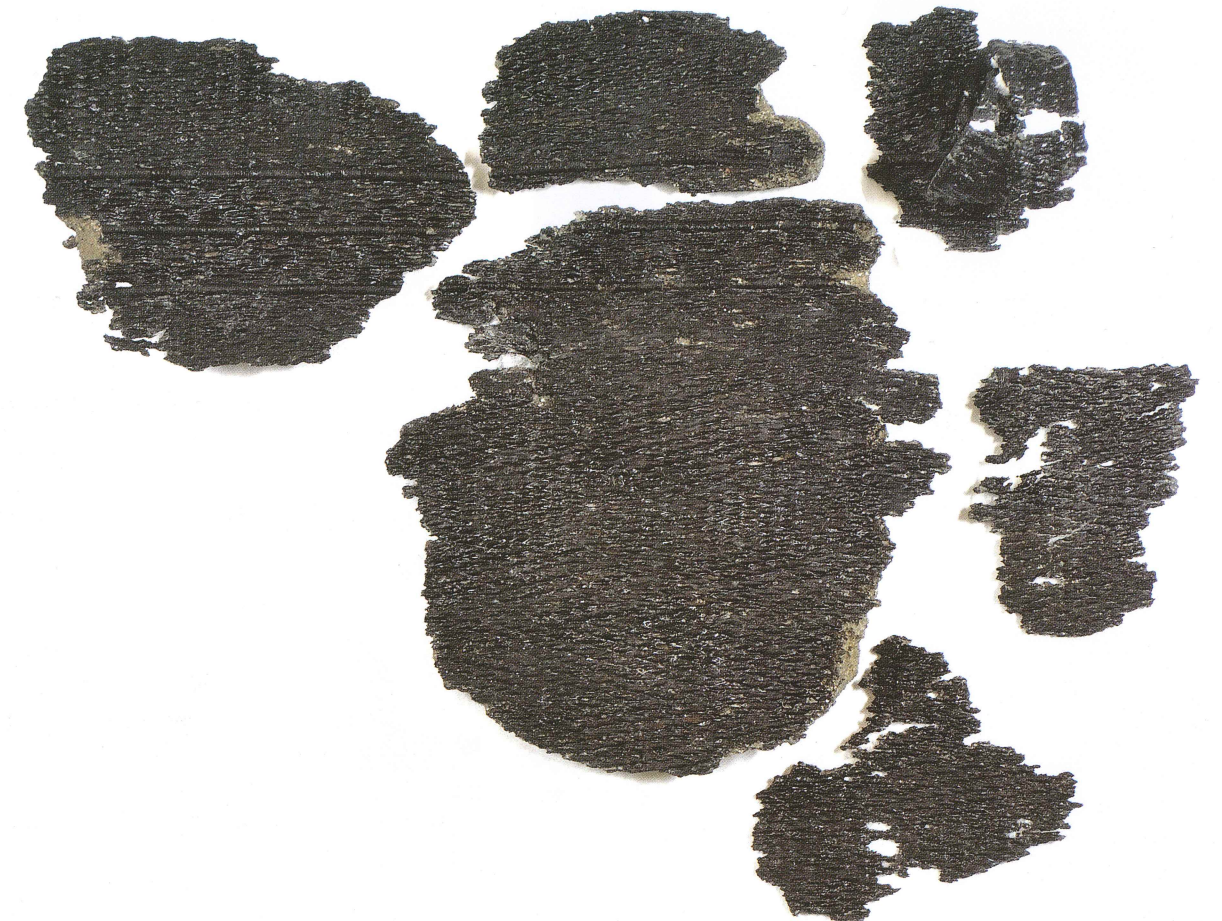


1号横帯下層内面

1号横帯 (左) と 2号横帯 (右) 実寸大



小口



2号横帯下層外面



2号横帯上層外面

0 1:1 10 cm

※「上層」は出土した時の上面、「下層」は出土した時の下面を指します。